

第3章 ラーニングコモンズ/グローバル ビレッジに関する実績

3.1 取り組みの概要

ラーニングコモンズ/グローバルビレッジ PT では、4つの人材像のうち、特に1つめの柱とした「チャレンジ精神と主体性を持つ若者」を実現する施策として、平成24年度に学内外の学びの実態調査を行うこと、平成25年度から、アクティブラーニング型授業を実施（学外者（地域の社会人・本学卒業生）を講師とする）すること、平成26年度から、ワンストップで支援を受けられる学習支援サービスの窓口を一元化することについて構想調書で述べている。さらに、特に年度は指定していないが、京都産業大学版ラーニングコモンズの構築を記述し、学内に存在する多数の学習場の共通コンセプトを、「本学学生・留学生・地域・産業界に、いつでも開かれた学習場を創出する。本学の学生が大学外の人々と、『学ぶ』行為を共に行うことによって、両者が、自身の学びに日々意味を見出し、より主体的に、よりイノベティブになれるような場を提供する」とした（構想調書 P.25～P.26）。更に、グローバルビレッジについて、3つめの柱とした「確かな言語力と異文化受容力を持つ若者」を実現する施策として、平成27年に設置すると記述した（構想調書 P.7、P.27）。

本学では、既に全学的に進められていたキャンパス計画に、上述の構想調書に記述したキャンパス内の学習環境整備の計画をオーバーラップさせて議論を進める事で、調書に記述した構想を更に展開する形で実施する事が可能となった。より具体的には、図書館のアクティブラーニング環境を整備（改装）し、運用しながら、雄飛館（平成25年9月竣工）の新設に伴い、その2階・3階に大規模なラーニングコモンズの設置を行うことが可能となった。これにより、当初想定していた取り組み以上のものを実施する事が可能となっている。

3.2 現状と成果

3.1に述べたラーニングコモンズ/グローバルビレッジ PT にて担当・実施した施策について、主な成果を以下に述べる。

3.2.1 アクティブラーニング型公開授業の充実

平成25年10月に仮オープンした雄飛館ラーニングコモンズでは、多数の授業（145件/平成26年1月20日現在）をアクティブラーニング型公開授業として実施した。アクティブラーニング型公開授業実施の際には、実施前に、実施場所や什器レイアウトについて専門スタッフ（ラーニングコモンズ担当職員）と相談しながら相応しい実施場所（スペース毎に利用可能なICT機器が異なる）・レイアウトを検討した上で（学生の主体性を引き出すためのより良い方法を検討した上で）実施している。

ラーニングコモンズでは、「企業人と学生のハイブリッド」等の科目履修に伴い、地域社会人と学生とがグループになって（授業時間外に）利用する姿が日常的に見られており、地域社

会人は、このような利用を通じて、本学の他の授業の様子についても、見学することができている。これは、大学における教育の価値について、地域社会が考えを深めるため（構想調書 P.26）の第一のステップと言える。

平成 26 年度以降は、引き続き、公開授業を実施すると共に、グランドオープン・イベント等を通じ、地域社会に対し、より積極的に、本学の教育プログラムの特徴や、大学で行われる教育の価値についての情報発信を行う予定である。平成 25 年 10 月に設置したラーニングコモンズ運営委員会にて、地域の社会人や本学卒業生を講師としたアクティブラーニング型公開講座など、イベント案について議論し、実現していく。

3.2.2 学習支援サービスの窓口の設置

構想調書執筆時は、図書館を人的支援の拠点として整備することを想定していたが、その後、学内の議論を通じ、図書館は資料を使った学習支援サービスを中心とした学習場としての役割と、現状のサービスを維持する上で、これ以上の学習支援サービスを展開することがスペース的に難しいという結論を得た。そこで、アクティブラーニングと、図書館にはない学習支援サービスを展開する特徴を持つ、より大規模なラーニングコモンズを、キャンパスの中心に位置する雄飛館 2 階・3 階に設置するという施策を新たに立ち上げた（3-2-6 参照）。

本学内で展開されている既存・新設の種々の学習支援サービスは、1 つで完結するものではなく、受講や課外活動、昼食や休憩時間といった、キャンパスライフの中に適切に埋め込まれるよう設計することが理想と言える。バスプールに近く、来学時や帰宅時に使用しやすい図書館と、キャンパスの中心に位置し、授業時間の合間に集まりやすい雄飛館とで、適切な役割分担をして、一拠点のメリットを活かし、大学全体に学習場を設置するというのが、本学ラーニングコモンズの特徴である。

雄飛館ラーニングコモンズ内では、ICT カウンター（2 階）及び学習支援カウンター（3 階）を設け、平成 25 年 10 月から、ICT に関するサポート・サービス（学生スタッフが対応）、日本語 / 英語ライティング及びプレゼンテーションの学習支援サービスの試行を開始した。更に、学内の種々の学習支援サービスについて、利用学生に案内することが可能なラーニングコモンズ・スタッフ（学生スタッフ）の雇用を平成 25 年 12 月から開始した。更に、学習支援について、学生の相談に応じるためのエントランスカウンター・スペースを設置した。平成 25 年度は、学習支援スタッフは、グローバル事業の事務局スタッフと兼任の状況であり、学内の具体的ニーズを調査する部分に注力する試行段階であった。

図書館では、リファレンスサービスを引き続き提供しており、特に、平成 25 年 6 月 26 日には、文章力 UP 実践講座をラーニングコモンズ・パイロット版（3-2-7 参照）にて、実施し、ライティング能力の向上を図った（参加者：約 60 名）。

平成 26 年度は、より専門的なスタッフを雇用し、雄飛館ラーニングコモンズ・3 階学習支援カウンターにて、日本語 / 英語ライティングの学習支援サービスを本格展開する。本事業で導入する英語自学自習システムのヘルプラインも、ラーニングコモンズ内に設置する。

このような雄飛館ラーニングコモンズ内に人的支援を集中配置すると共に、図書館のリファレンスサービスや、教学センターのピアサポーター、ボランティアセンターのボランティアスタッフ等、学内の様々な人的サービスや学習環境について、学生スタッフを中心として、情報を収集・整理し、本学学生に発信していく予定である。

3.2.3 グローバルビレッジ (仮称) 設置準備

平成25年10月に仮オープンした雄飛館ラーニングコモンズでは、グローバルビレッジ (仮称) (新2号館に設置予定) が整備されるまでの間、グローバルビレッジ (仮称) で実施する予定の取り組みについても、試行する役割を担っている。このため、英文に関するライティングとプレゼンテーションの学習支援を実施し、学生の潜在的ニーズに関する情報収集を行っている。更に、「海外インターンシップ体験談」や「グローバルって？」といった異文化受容力を高めるミニ・イベントを実施した (平成25年10月)。図書館のラーニングコモンズ・パイロット版 (3.2.7 参照) では、邦画を英語字幕で上映し、留学生と日本人学生とが上映終了後、作品について英語でディスカッションをするイベントも定期的開催している。

グローバル・ビレッジ (仮称) の設置後、英文ライティング支援のより本格的なサービス提供を行う。更に、ラーニングコモンズ学生スタッフ (平成25年12月から雇用開始) からも、留学生との交流イベントや国際交流イベントをラーニングコモンズで実施したいという要望があるため、これらの実現をラーニングコモンズ運営委員会にて検討する。

3.2.4 ラーニングコモンズセミナーの実施

本学のアクティブラーニング / ラーニングコモンズに関する理解を促進するため、アクティブラーニング環境として再整備した、中央図書館「図書館ホール」にて、大正大学の上田忠憲氏 (法人企画部長) をお招きし、セミナーを実施した (図3-1)。当日の成果については、『高等教育フォーラム』 (平成26年3月発行・第4号) に投稿した。



ラーニングコモンズ セミナー

学びの場を創造する ～主体的な学習態度の形成に向けて～

「学生の意欲を引き出す学習環境」について、他大学から講師をお招きし、既に運営されているラーニングコモンズの事例を参考にしながら考えます。

目的 また、新2号館に設置される予定のラーニングコモンズと、そこを舞台として取組まれるアクティブラーニングについて、理解を深めるとともに情報を共有し、全学的な運営・利用促進を目指します。

会場 京都産業大学 図書館ホール

日時 平成25年7月5日 (金) 17:00～19:00 (16:30 開場)

プログラム ■ 開会挨拶: 大城 光正 副学長 (グローバル化推進プロジェクト チームリーダー)

■ 第1部: 講演 「学生の意欲を引き出す学習環境の構築とその運用」
上田 忠憲 氏 (大正大学 法人企画部 部長)

講師紹介
上田忠憲 (ウエタダ タカノリ) 氏は、大正大学の教育環境整備を担当する責任者として、ラーニングコモンズの構想段階から今年4月までの運用に深く関わってきた。大正大学のラーニングコモンズは、「図書館の外に設置されたコモンズ」の成功事例であり、本学の新しい号館にとって参考となる事例である。加えて、「ランゲージサポートセンター」という多言語による語学教室もコモンズにて実施されており、この点は特にグローバル・ビレッジの取り組みにおいて参考とすることができる。

■ 第2部: パネルディスカッション

パネラー 上田忠憲氏 (大正大学)
池田恵子 (図書館)
中澤正江 (学長室)
コーディネーター 鈴木清巳 (外国語学部)

対象 本学教職員
主催 ラーニングコモンズ / グローバル・ビレッジ PT
協賛 京都産業大学 学長室 (グローバル推進) 担当: 中澤・尾崎・永田 内線: 6100
E-mail: global-info@star.kyoto-su.ac.jp
申込 所属・氏名をご記入の上、上記メールアドレスに「ラーニングコモンズ セミナー参加希望」という件名でお申込みください。参加申込締切: 6月28日 (金) 定員: 178名 (定員に達し次第締め切りがあります。)

図3-1. ラーニングコモンズセミナー概要

3.2.5 学習環境調査の実施及び調査結果に基づくラーニングコモンズのコンセプト構築

ラーニングコモンズ/グローバルビレッジの整備にあたって、学外の様々な学習環境の調査を実施した（平成 25 年度）。学習活動実態調査として、本学学生に対し、行動分析を交えた質的な調査を実施した（平成 24 ～ 25 年）。この内容と成果については、学内報告会の実施を行った。更に、学内調査として、本学学生 2,262 名から回答を得た学習環境調査を実施した。内容と結果については、結果速報としてレポートにまとめ、関係会議にてフィードバックした他、ラーニングコモンズ/グローバルビレッジ・プロジェクトチーム実績報告書（3.2.8 に詳述）にて詳細を報告した。

調査では、本学学生の特徴について、「クリエイティブな学習（答えのない問いに対する学習）を本学学生は知識反復型の学習よりも好む傾向にある」「クリエイティブな学習を好む学生の方が、知識反復型の学習を好む学生よりも学習時間が長い」「知識反復型の学習を好む学生に比べ、クリエイティブな学習を好む学生の方が、相対的に、期間に見合った成長実感を得ることができている」という示唆を得た。

本学では、これらの調査結果を基に、学内で議論を重ね、次のような独自のラーニングコモンズのコンセプトを得ることができた。このコンセプトは、学生向けの利用案内にて提示している他、ラーニングコモンズ web サイトでも公開する予定である。

本学のラーニングコモンズは、本学学生が相互に刺激を与えながら知的に成長するための「共創空間」として展開する。ディスカッション、プレゼンテーションといった相互理解のために社会的に必要な活動を日常的に行うことで、予測困難な時代において最善策を導くための基礎力と、主体的に学び、考えるという学習態度を養う場とする。

3.2.6 雄飛館ラーニングコモンズの設置

雄飛館ラーニングコモンズは、雄飛館（平成 25 年 9 月竣工）に合わせ、平成 25 年 10 月 2 日に仮オープンした。雄飛館ラーニングコモンズは、本学のラーニングコモンズのコンセプト（前述）に基づき、次のようなフロアから構成されている。これらのスペース構成は、ラーニングコモンズ・ワーキンググループメンバーによる議論、ラーニングコモンズ/グローバルビレッジ・プロジェクトチームによる議論を経て、親プロジェクトであるグローバル化推進プロジェクトチームに提案された。この後、常任理事会にて承認され、実際のフロア構成に適用されている。

● 「ラーニング・スペース」：主体的な学び合いを支援し、促進することで、「生涯にわたって学び続ける姿勢」を養う場。

● 「クリエイティブ・スペース」：人と人との交流による相互啓発とコラボレーションを支援し、促進することで、「多様な人々と協働する力」を養う場。

● 「パフォーミング・スペース」：自由な発想でチャレンジ精神を発揮することを支援し、促進することで、「多様な人々から知識を獲得し、多様な人々に情報を発信する力」を養う場。



図 3-2. 雄飛館ラーニングコモンズにおける学習の様子

3.2.7 図書館ホール・アクティブラーニング環境 (ラーニングコモンズ・パイロット版) の設置

平成 24 年 3 月に、雄飛館ラーニングコモンズの設置に先駆けて、図書館 1 階に位置する図書館ホールを、ラーニングコモンズ・パイロット版として整備しなおした。可動式の什器やソファ席を準備し、通常は学生の学習空間として新たに開放し、公開講座や授業・セミナーでも活用している。特に、「自己発見と大学生活」等のキャリア科目では、グループワーク実施の際に、図書館ホールを活用した。図書館ホールは、152 名までの対象者を収容したプレゼンテーションが可能であり、雄飛館よりも大規模な双方向型イベントの実施が可能となっている (雄飛館は、100 名程度が最大である)。

本学の図書館は、これまで、閲覧スペースでの個人学習・レファレンスサービスによる知のインプット・プロセス、パソコンルームでの個人の知の加工プロセス、グループ学習室でのチームでの知の加工プロセスを中心に支援してきた。この度、図書館ホールに、ICT 機器の導入と、グループワークに最適な可動式の什器を導入したことにより、小規模～大規模なプレゼンテーションを実施することが可能な環境を整え、知のアプトプット・プロセス支援を強化した。このことにより、知の創造に関する一連のプロセスを循環させる環境を、本学図書館に整備することができたと言える。

さらに、周囲の音を遮断し、小グループでじっくりと議論を深められる既存のグループ学習室に加え、ラーニングコモンズ・パイロット版を設置したことにより、よりフレキシブルなレイアウトや、グループ構成が可能となり、図書館内のグループ学習の幅が大きく広がっている。

なお、ラーニングコモンズセミナー (平成 25 年 7 月 (前述)) では、図書館ホールの什器を扇状に配置して使用し、登壇者 (ステージ上) と参加者とのインタラクション (質疑応答) を活発化した。

3.2.8 ラーニングコモンズ / グローバルビレッジ PT 報告書の執筆

ラーニングコモンズ / グローバルビレッジ PT では、学内外において、多数の調査研究を実施し、学内の議論をデータに基づき推進した。これらの成果について、平成 25 年 9 月に、ラーニングコモンズ / グローバルビレッジ PT 報告書としてまとめた（図 3-3）。



図 3-3. 京都産業大学ラーニングコモンズ / グローバルビレッジ PT 報告書

3.3 まとめ

本章では、ラーニングコモンズ / グローバルビレッジに関する平成 24 年度～平成 25 年度の成果について、ラーニングコモンズ / グローバルビレッジ PT が記述した。

本 PT の主な成果は、次の通りであった。

1. アクティブラーニング型公開授業の実施
2. 学習支援サービスの窓口の設置
3. グローバルビレッジ（仮称）設置準備
4. ラーニングコモンズセミナーの実施
5. 学習環境調査の実施及び調査結果に基づくラーニングコモンズのコンセプト構築
6. 雄飛館ラーニングコモンズの設置
7. ラーニングコモンズ / グローバルビレッジ・プロジェクトチーム報告書の執筆

今後は、これらの成果を踏まえ、新 2 号館のグローバルビレッジ（仮称）の構築に向け、コンセプト作りや什器導入計画を行う予定である。